申し込み不要

|画展ギャラリー

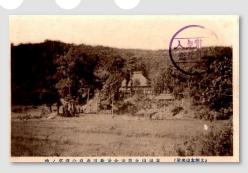
今から百十年前の大正元年九月四日 一誇る文豪」田山 「花袋が太田の町を歩く

小説『百日紅』を読む

大光院参道 (明治時代)

群馬県立太田高等学校教諭 関塚 誠

氏



絵葉書 金龍寺遠景 (明治時代)

令和4年12月 13:30~14:30 (終了予定)

太田市立史跡金山城跡ガイダンス施設 〒373-0027 群馬県太田市金山町 40-30 TEL0276-25-1067



絵葉書 大光院吉祥門 (明治時代)

同時開催

群馬県立太田高等学校文芸部が選んだ

俺の花袋、 ぐっときたフレーズ」

発表会

開け放した寺は此方からすつかり見えた。おしろい草の赤いのと、向日葵の黄

のと、

松の青いのとを隔て、、

白い服を着た男と、

羽織袴の若い書生

て了つたんだからねえ… もう直きだよ、僕等の過ぎ去つて了ふのも。

→クラシカルな語りの雰囲気に「ぐっときた」

『いつの間にか、時が経つて行つて、今では自分の眼上の人がゐない位になつ

昔の色彩が鮮やかに感じられて「ぐっときた」